

国土交通省総合政策局  
情報政策課交通経済統計調査室  
平成26年11月5日(水)公表

# トラック輸送情報

平成26年8月分

平成26年9月分は平成26年12月上旬公表予定

\*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111      F A X   03-5253-1567

担当 浜田、桑原   内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

## トラック輸送情報（平成26年8月分）

平成26年11月5日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：浜田、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

### 1. 特別積合せ貨物

#### (1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、4,754,958トンで、前月と比べ総輸送量が約945千トン減少したため、前月比83.4%（季節調整済み97.1%）となり、前年同月との比較では、約254千トン減少したため、前年同月比94.9%の実績であった。

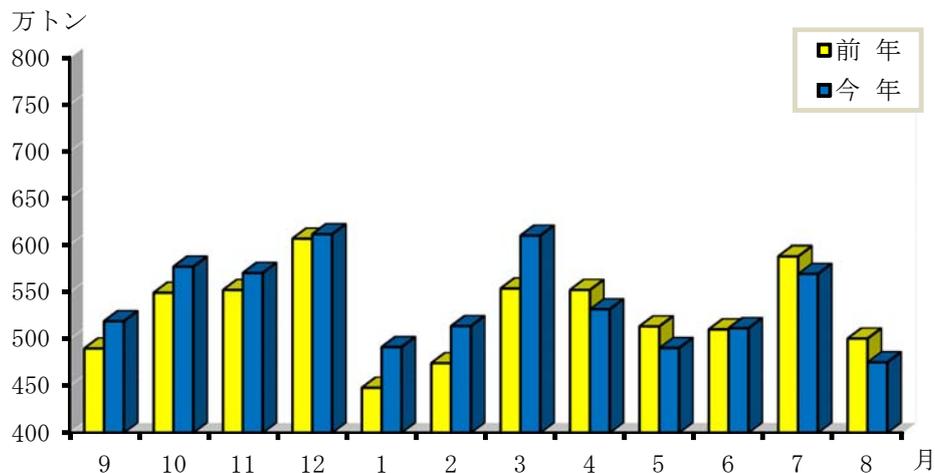
なお、平均稼働日数は22.5日で、前月と比べ2.5日減少し、前年同月との比較では、0.5日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、211,331トンで、前月と比べ約17千トン減少したため、前月比92.7%となり、前年同月との比較では、約6千トン減少したため、前年同月比97.0%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

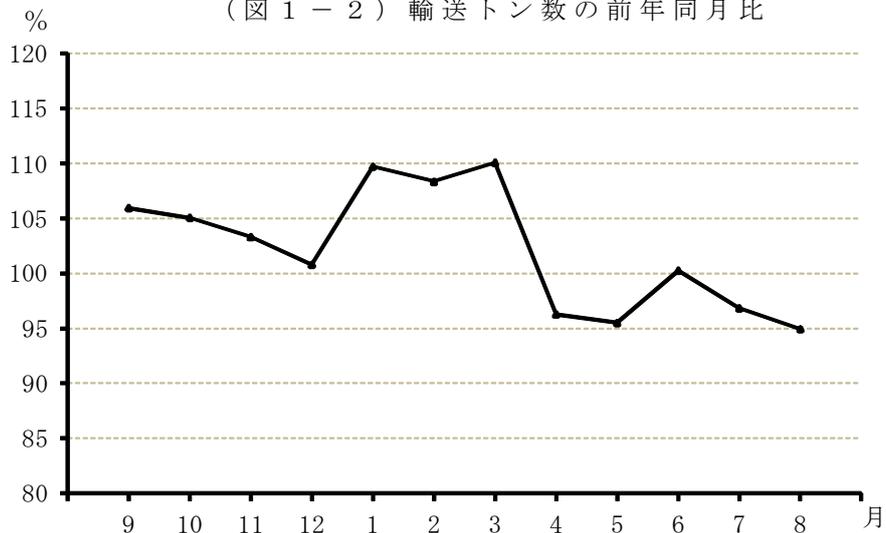
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

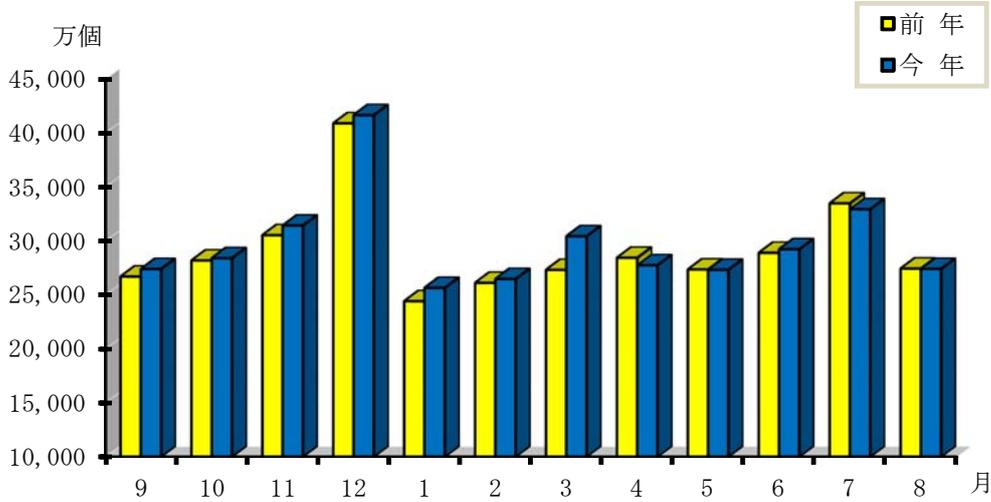


(2) 宅配便の概況

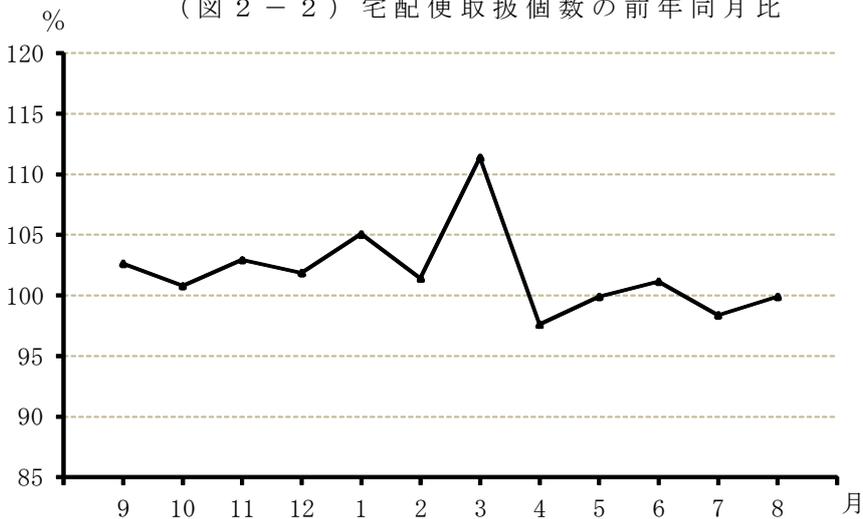
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 274,256 千個で、前月と比べ 約 55,265 千個減少したため、前月比 83.2% (季節調整済み 101.2%) となり、前年同月との比較では、約 318 千個減少したため、前年同月比 99.9% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。その減少要因としては、工場・生産地からの貨物減であった。また、季節的需要減が「機械」、「日用品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で減少したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、全ての品目で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少要因は工場・生産地からの貨物減であった。また、倉庫から出る貨物減が「化学工業品」、「日用品」で見られた。主な減少地域は「神奈川」、「関東」、「愛知」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	増 増	変 ら ず	減 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		1	9	5	3	果物	4	
	金属製品			12	9		その他の金属製品	大阪、近畿、中国	4
	機械			9	9	2	機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	化学工業品			11	11		合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	繊維工業品		1	13	7	1		関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4
	食料工業品		1	9	8	2	製造食品、飲料、その他の食料工業品	関東、北陸信越、愛知、近畿	4
	日用品			10	11	1	書籍・印刷物	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿	4, 8
	その他			11	5	5	百貨店配送品		2
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		1	12	3	2		4	
	金属製品		2	14	4	1		関東、中部、近畿	4
	機械		1	12	6	1		愛知	4
	化学工業品		1	13	8			神奈川、関東	4, 7
	繊維工業品		1	14	7			神奈川、関東	4
	食料工業品			12	7	1		神奈川、関東、愛知、大阪	4
	日用品			11	11			関東地方、愛知	4, 7
	その他	1	1	9	7	2		全国	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。  
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者 797 社/調査対象事業者数 1,038 社)の輸送量は、前月比 91.1%、前年同月比 95.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	95.9 %	99.1 %	96.9 %	94.1 %	93.9 %	84.2 %	97.6 %	96.8 %	100.2 %	95.5 %	101.0 %	
前 月 比	91.1 %	100.7 %	89.5 %	85.5 %	89.2 %	75.8 %	88.5 %	87.0 %	95.2 %	93.9 %	91.7 %	

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況(各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 100.7%、対前年同月比 99.1%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」及び「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物増により「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」及び「セメント」が、また「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 89.5%、対前年同月比 96.9%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、景気の影響による貨物減により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物減により「金属製品」、「機械」、「揮発油」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 85.5%、対前年同月比 94.1%であった。品目別では、輸出入の貨物増により「その他の化学工業品」が、季節的需要増により「動物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「機械」及び「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 89.2%、対前年同月比 93.9%であった。品目別では季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「化学肥料」及び「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 75.8%、対前年同月比 84.2%であった。品目別では、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「金属製品」、「機械」、「その他の窯業品」及び「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 88.5%、対前年同月比 97.6%であった。品目別では、夏季休暇等による稼働日数の減少により「機械」、「金属製品」及び「化学薬品」の輸送量が減少し、また、夏の大雨のため飲料等の需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 87.0%、対前年同月比 96.8%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「木材」が、季節的需要減により「機械」、「その他石油製品」、及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 95.2%、対前年同月比 100.2%であった。品目別では、工場・生産地からの貨物増により「繊維工業品」及び「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」及び「紙・パルプ」が、天候の影響により「野菜・果物」、「水産品」及び「食料工業品」が、工場・生産地からの貨物減により「工業用非金属鉱物」が、建設関連の需要減により「その他の窯業品」及び「紙・パルプ」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 93.9%、対前年同月比 95.5%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、また、「食料工業品」及び「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」及び「日用品」が、また、「機械」、「セメント」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 91.7%、対前年同月比 101.0%であった。品目別では、建設関連の需要増により「鉄鋼」が、商社・問屋からの貨物増により「木材」及び「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「機械」が、商社・問屋からの貨物減により「金属くず」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
1. 穀物	増	2	1		1					4		8
	減		2		1					2	1	6
2. 野菜・果物	増	3	5		2			1	1	5		17
	減	1	2		2			1	6	6		18
3. その他の農産品	増	2									1	3
	減					1		1		2	1	5
4. 畜産品	増							1				1
	減	1	1							2		4
5. 水産品	増	1	3		1					2		7
	減	1	1		1				3	1		7
6. 木材	増		3		1					3	1	8
	減	4	2						3	2		11
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増									1		1
	減		1							1		2
9. 金属鉱物	増		1									1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	2		1		1		3	2	5		14
	減	8	3	1		1		2	1	3		19
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1									2
	減		1					1	2			4
12. 鉄鋼	増		1		1			1	3	1	2	9
	減		2		1			1	3	1	1	9
13. 非鉄金属	増				1							1
	減		1									1
14. 金属製品	増	1			1		2	1	2			7
	減	1	3		1	1	3	2	1	1		13
15. 機械	増				2	1	1		2	1		7
	減		2	1	1	2	2	5	3	4	2	22
16. セメント	増		1			1			1	1		4
	減	4	2					2		3		11
17. その他の窯業品	増									1		1
	減					1			2	3		6

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増	1			1					1		3
	減		2					1				3
19.その他の石油製品	増	2							1			3
	減	1	1		1			4	1			8
20.コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減				1							1
21.化 学 薬 品	増											
	減				1		1		1	1		4
22.化 学 肥 料	増											
	減	1			3					1		5
23.その他の化学工業品	増			1					1			2
	減		1		1			2	1	1		6
24.紙 ・ パ ル プ	増							1	2		1	4
	減	1	1				1		4	4		11
25.織 維 工 業 品	増								2			2
	減		1							1		2
26.食 料 工 業 品	増	3	1	1	2		1	1	1	7		17
	減	1	6	1	1		2	5	3	3	1	23
27.日 用 品	増		1					2		3		6
	減		1		2		2	1		7	1	14
28.その他の製造工業品	増											
	減		2	1		1			1	1		6
29.金 属 く ず	増									1		1
	減							1			1	2
30.その他のくずもの	増											
	減								1			1
31.動植物性飼・肥料	増	1		1						1		3
	減	2	2						1	3		8
32.廃 棄 物	増		1		1			1	3	1		7
	減		2						1	1		4
33.輸 送 用 容 器	増									1		1
	減		1		1							2
34.取 り 合 せ 品	増							2		3		5
	減				1			2		2		5
35.そ の 他	増			1	2		1	1		1	1	7
	減		3	3	7		9	2	1	9		34